

No.143
2003.
11.30

岐阜の博物館

編集兼発行

〒501-3941 関市小屋名
(岐阜県百年公園内)
岐阜県博物館内
岐阜県博物館協会
TEL 0575-28-3111
振替名古屋637909

博物館と学校

岐阜県博物館協会副会長

岐阜県博物館長 武山 杖司



A博物館職員「小学生が学校行事で博物館の中庭まで来ているのに、建物に入ってもらえない。」

B資料館職員「私の所も同じです。周辺の公園で行事が計画され、雨天時の裏番組として館の見学が組まれるのです。」

教育改革が叫ばれ、様々な改革プログラムが実践され、その成果も徐々に出てきているように思われる。岐阜県では、児童生徒の教育に当たって、学校の中で学校の教師だけが指導に携わるというだけでなく、加えて、学校内外の教育資源を多面的に使用しようとしている。学校間コンピュータネットワークを利用した授業や総合教育センターの人材バンクに登録された社会人講師の指導を受けられる能力開花支援事業もそのためである。

ALL FOR ONE (一人の児童生徒のためにあらゆる資源・手段を) が標榜されているが、博物館や美術館もALLの一端を担わなければならない。

現在、岐阜県博物館協会加盟の博物館は146館に至り、未加盟の施設も大変多い。実に多様な博物館が県内各地に設置されている。

博物館の果たすべき役割は多い。中でも「展示」と「教育」を対比すると、これまでは展示に力が入っていたように思える。資料収集、展示、調査研究に比べ、学校教育に目が行かなかったのではないかと思う。

しかし、博物館で恐竜の骨格標本を見て、感嘆の声をあげる小学生、美術館で大人が行過ぎてしまうような抽象絵画を前にして、それに見入る幼稚園児達。この幼い子供達の感動や感性、好奇心を家庭及び学校の教育に結び付けたいと思うのは至極当然の気持である。

今日、博学連携・博学融合が叫ばれ、各施設が学校との関りに注視しだしたところである。今、博物館及び学校は何をすべきか。

①博物館職員、学校教師の双方が意識を改革する必要がある。これが一番難しいことかも知れない。博物館は社会教育施設ではあるが、学校教育の有力な施設でもあると認識することである。博物館、美術館、資料館等は子供には無縁の所という偏った認識があるならば、それを博・学が拭い取る必要がある。PR・広報に努め、子供のときから博物館を身近な存在にし、社会、理科、総合的な学習の時間、美術等の学習に繋げる必要がある。

②博物館と学校が協同して学校の求める学習内容、指導方法等をつくりあげる必要がある。指導内容に対して、指導者や指導方法は最も適切なものが採用されることが望ましい。教師は、無論校内で自ら指導を行うが、指導内容によっては指導者や指導方法のすぐれた“コーディネイター”となることも求められるのではないか。博物館での来館・学習だけでなく、学校への実物資料の貸し出し、博物館職員による学校での出前授業、博物館と学校をコンピュータ通信回線で結んでの遠隔授業等、博物館資源の利活用という立場から、いいコーディネートをすべきと思う。

博物館職員の嘆きを解消したいものである。

第96回岐阜県博物館協会公開講座報告

日時：平成15年7月27日
会場：岐阜県郡上郡白鳥町長滝道の駅白鳥2F和室
参加者：107名

日程：13:30～14:00 受付
14:00～15:30 講演
演題「白鳥町の仏像」
講師 清水眞澄氏
開会挨拶：白鳥町文化財保護協会会長 正者史朗
県博物館公開講座委員 生田邦雄
白鳥町教育長代理（生涯学習） 和田 実
講師紹介：白鳥町文化財保護協会副会長
県博物館協会理事長 若宮多門
閉会御礼：白鳥町文化財保護協会副会長 上村俊邦
進行： 野里正円

講師プロフィール

神奈川県立博物館主任研究員を経て、現在は成城大学教授、これまでに仏像（平凡社）鎌倉大仏、東国文化の謎（有隣堂）鎌倉の仏像文化（岩波書店）など多数の著作を発表され、1991年から白鳥町内の仏像、絵画、工芸品を学術調査団長として御活躍中です。

「白鳥町の仏像について」

清水眞澄教授

- 講演1.白鳥町の文化財
- 講演2.白山神社と長瀧寺の歴史
- 講演3.白山神社と長瀧寺の彫刻

最後に近年の博物館施設に対する「行政評価」について、文化、芸術は経済効果ではなく、将来に対して長い目で見て多くの文化を末永く見守り、人々の理解を得る事が最も大切な事である、と結ばれました。

[第2会場]

白山文化の里 瀧宝殿見学

防火対策万全の最新式光ファイバーによるピンポイント照明を用いた文化財保護や、展示効果抜群の瀧宝殿で常設展示されている、国の重要文化財、木造釈迦三尊像、木造四天王立像、県の重要文化財、木造華駄天立像、木造善財童子立像について清水教授より細かく説明を受け拝観し、解散しました。



(機関紙委員 日本土鈴館 遠山一男)

第56回岐阜県博物館協会会員研修会

演題：「展示する博物館から学べる博物館へ～合掌造りを活かして～」
場所：野外博物館合掌造り民家園ほか
講師：中川 満
参加者：17名

第56回の会員研修会が白川村の合掌造り民家園にて開催されました。講師の中川満氏は、全国公募により選出された民家園を運営する財団の事務局長でいらっしゃいます。

氏はまず、都会の喧騒を離れ自然に囲まれた白川村での生活のすばらしさから、高度成長以降日本人が失いつつある自然との調和を基調としたライフスタイルに回帰しようというコンセプトを掲げています。具体的な方法として、園内の植物（雑草も含む）のキャプションを設置したり、旅行業者とともにツアーメニューを企画し、自ら園内の解説をするなど魅力的なソフト事業を打ち出しました。

そして現在の年間入館者数は就任前の倍になったというすばらしい実績をあげています。

様々なエピソードを交えながら、日本本来のすばらしさを再発見することができる大変興味深い内容でした。



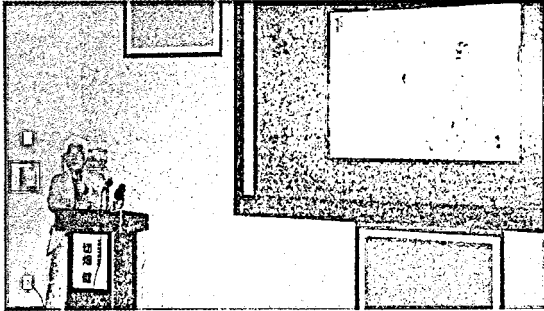
引き続き、望月美里学芸員に民家園の中を案内していただきました。合掌造りのつくりや特徴、生活の様子などについてのわかりやすい解説に、参加者は熱心に聞きっていました。

次の日は、白川郷旧遠山家民俗館と荘川村の民俗資料館「荘川の里」を見学しました。

多数の民家を見ることで、同じ茅葺民家でも地域によって様々な形態をしていることがよくわかりました。

(機関紙委員 飛騨民俗村 岩田崇)

第97回岐阜県博物館協会公開講座報告
 演 題：「伝統工芸の保存と伝承—染織を中心に」
 日 時：平成15年9月23日(火・祝)
 場 所：岐阜県美術館 ハイビジョンホール
 講 師：大手前大学人文科学部教授 切畑健氏
 参加者：60名



(講演要旨)

江戸時代に作られた京友禅染作品のスライドを見ながら、文様の変遷や特徴、色遣いについての解説を交えて、「美」というものが実用性のうえに、素材のよさ、技術の確かさ、文様に反映される思想の3つの要素が狂いなくあって初めて出来るという話を伺った。

友禅染の技術は江戸時代前期に確立され、それ以前の刺繍や絞りによる伝統的なデザインに代わって、風俗や風景といった絵画を描くような文様が登場した。とは言っても、文字を文様に採用する目新しさを見せる一方で古典文学をモチーフにしていたり、文様で埋め尽くすデザインから余白を残した「粹」なデザインへと変えながらも、染色では出せない色合いを刺繍で補ったりと、伝統と今様をうまく組み合わせている。友禅が人気を呼んだのはそれが時代の最新モードであったからで、現代の作家も伝統を踏まえながらも最先端と呼べるデザインを創造する必要がある。現在、伝統工芸保持者を中心とした個性的な染織作品については安定した需要があるが、包括的な仕事をしている業者は大変厳しい状況下にある。現代生活に合う姿に着物の形を変え、価格的にも使いやすくなるように流通の構造改革を進めていかなければ伝統工芸品といえども廃れていくことは必至である。

なお、公演後は「『日本のわざと美』展—重要無形文化財とそれを支える人々—」を見学し、染織にかぎらず多彩な伝統工芸の優品の数々に触れる機会となった。

(機関紙委員 岐阜市歴史博物館 稲川由利子)

第98回岐阜県博物館協会公開講座報告
 演 題：「装身の麗人
 ～玉からみた古墳時代の東海～」
 日 時：平成15年11月1日(土)
 場 所：可児郷土歴史館
 講 師：京都大学文学部文学研究科研修員
 参加者：57名

第98回公開講座は、可児郷土歴史館の特別展「ファッションの考古学」と関連して開催されました。講師には、京都大学で生・古墳時代の玉類を中心に研究していらっしゃる大賀克彦氏をお招きしました。



最初に、身を飾ることの普遍性と発達について、アクセサリなどで身を飾る心理的な観点から触れて、身を飾るとはどのようなことなのか、装飾品を手に入れたと思う気持ちはどのようなことなのかについてお聞きしました。そして、具体的に装身具の区分や種類、それぞれの装身具における玉の特異性などについてのご説明がありました。

装身具の製作方法についての解説の中では、素材とした鉱物の産地や使用状況、製作工人の存在などについてお聞きすると同時に、素材の原石（翡翠・緑色凝灰岩・碧玉・瑪瑙など）が回覧されて、参加者は実物を手に取って見ました。



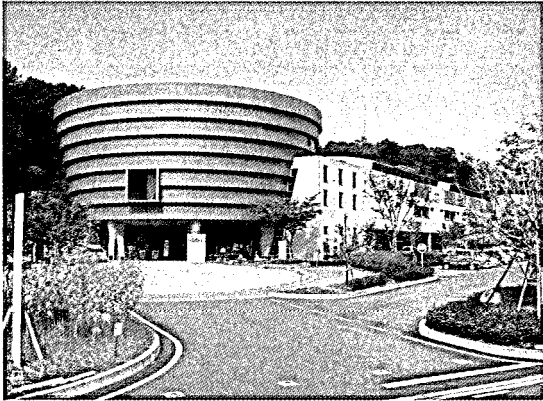
古墳時代の玉類には、形状・素材・製作地などさまざまな種類があります。特に今回は、地元の岐阜にまつわる東海出土の玉についての解説を中心にしていただき、玉の地域的な流入や移行などについての解説を、参加者は熱心なようすで聞き入っていました。

この後、講演を聴いた参加者の多くは、展示会場である可児郷土歴史館の特別展を興味深く見学しました。

(機関紙委員 内藤記念くすり博物館 野尻佳与子)

サイエンスワールド

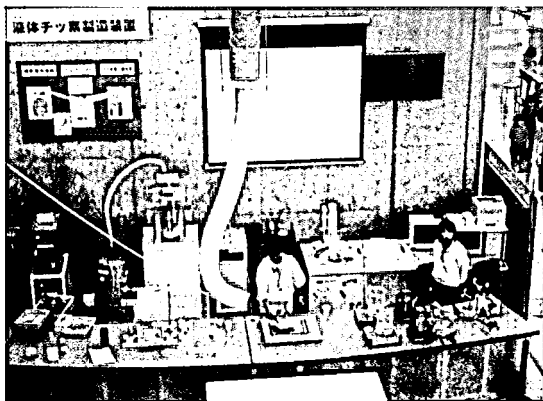
〒509-6133 岐阜県瑞浪市明世町戸狩54
TEL:0572-66-1151 FAX:0572-66-1152
URL <http://www.astec-gifu.jp>
e-mail sciencew@astec-gifu.jp



サイエンスワールドは、サイエンスショーや科学実験を体験することができる施設です。今までの科学館のように展示物はなく実際に実験を体験することを目的とし、岐阜県瑞浪市に平成11年にオープンしました。

建物は円柱状の一風変わった外観で、館内は吹き抜けの二階建てになっているため、ゆったりとした空間になっています。

まず1階のスペシャルラボでは、走査型電子顕微鏡と液体窒素製造装置を使って日頃私達が触れることのない極限の世界の現象を観察することができます。また、その隣の研修室ではノーベル物理学賞を受賞した小柴さんで有名なニュートリノに関する展示と検出器を設置し、その場に降り注ぐ宇宙線の粒子をリアルタイムで観察できるコーナーになっています。その他科学図書館では科学関係の図

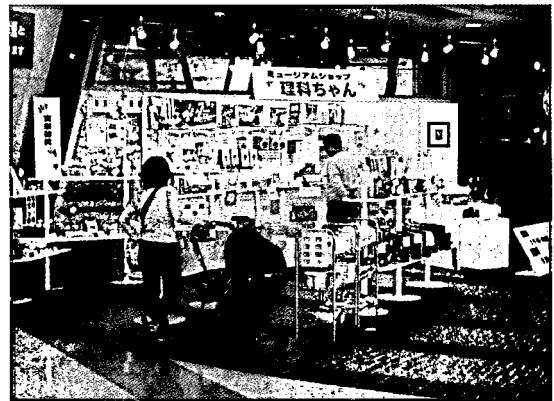


書約3,000冊とパソコン10台が設置され、理科や科学工作、科学技術に関する書籍やCD-ROMの閲覧、インターネットの利用ができるようになっています。

2階のサイエンスラボでは一人ひとりが実際に科学実験を行う体験メニューのサイエンスワークショップや、子供達だけでなく、大人も科学者になった気分楽しめるチャレンジワークショップが常時開催されています。ぜひご家族で参加されてみてはどうでしょうか。

また、世界で初めての約1時間のサイエンスショーは、映像と実験を見て、時にはステージに上がって実験に参加したり、出題されるクイズに頭をひねったりしながら科学の原理や楽しさを実感できるショーになっています。

1階ミュージアムショップ「理科ちゃん」では、光が当たると変色する不思議なインキや、水の中で消える不思議なゼリーなど大人でも思わず欲しくなってしまうような色々な科学実験キットや工作資材が販売されています。



【交通】JR中央線「瑞浪駅」から徒歩30分
(タクシー5分)

中央自動車道「瑞浪IC」から北へ3分

【駐車場】無料 (バス5台、普通車約30台)

【開館時間】午前9時～午後5時

【休館日】毎週月曜日及び祝日の翌日

【入館料】無料

①サイエンスワークショップを体験する場合は、材料費1人200円が必要です。

②その他の実験で高額実験材料を使用する場合は、実費を負担する場合があります。

(機関紙委員 土岐市埋蔵文化財センター 中高茂)